

事業番号	8 04 25	事業改善シート (26年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	凍結精液生産事業費			担当課	部局	農政部	
総合5か年計画	プロジェクト			課・室	園芸畜産課		
	施策の総合的展開	1-3 夢に挑戦する農業 2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産		E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp		
				実施期間	S50 ~		

### 1 事業の概要

目指す姿	<p>○県有種雄牛「栄寿」の精液や高能力牛の受精卵を活用して、信州プレミアム牛肉の生産や優秀な繁殖雌牛群の造成を進める。</p> <p>○希少価値のある純粋豚生産や一般向けの三元交配豚を作出するための種畜の確保を進め、特色ある畜産物の生産を進める。</p> <p>○こだわりのある畜産農家の支援をすることで信州ブランドの生産を拡大し、消費者に喜ばれる畜産物を提供する。</p> <p>平成29年度目標:信州プレミアム牛肉年間認定頭数 3,700頭</p>
現状 (予算編成時)	<p>○県有種雄牛「栄寿」は、平成24年度全国和牛能力共進会において安定した成績を残した。</p> <p>○今後も和牛4頭の精液を活用するが、年々周囲の改良が進む中では販売本数が減少している。</p> <p>○今後も改良を進めていくためには新たな優良遺伝子による世代交代が必要となっており、高能力雌牛受精卵を利用し雌側からの改良を図る必要がある。</p> <p>○希少価値のある純粋豚を確保して、畜産農家のニーズに応えるとともに、精液等で新たな血統を入れながら、養豚農家が利用しやすい種豚を維持していく必要が増している。</p>

県が関与する理由	<p>県関与の必要性あり</p> <p>【左記の説明、根拠法令等】</p> <p>精液等の採取、調製、供給は法令に定められた許可が必要であり、県は特別な施設・技術を保有し、安定して供給できる体制がある(家畜改良増殖法、第2期長野県食と農業農村振興計画)</p> <p>県民との協働による実施: 実施は困難</p>
----------	--

成果目標・事業内容	① 成果目標 (H26)				
	<p>○県有種雄牛4頭の飼育と精液生産</p> <p>○牛凍結精液2800本の生産保管と供給</p> <p>○豚精液の生産と1800本の供給</p>				
	② 事業内容 (単位:千円)				
	項目	実施方法	H26事業実績		
			H26 (当初)	H26 (決算)	H27 (当初)
牛凍結精液の生産と供給	直接	・種畜を飼養するための飼料、敷き料管理 ・精液性状の確認と凍結精液の生産、保管、販売	2,904	2,682	2,904
豚液状精液の生産と供給	直接	・種畜を飼養するための飼料、敷き料管理 ・精液性状の確認と液状精液の生産、販売	2,376	2,290	2,466
合計			5,280	4,972	5,370

事業コスト	区分(単位:千円)	24年度	25年度	26年度	27年度
	前年度繰越				
	当初予算	5,931	5,059	5,280	5,370
	補正予算		-513		
	合計(A)	5,931	4,546	5,280	5,370
	Aの財源				
	一般財源				
	県債				
	国庫支出金				
	その他(財産収入)	5,931	4,546	5,280	5,370
決算額(B)	5,931	4,487	4,972		
概算人件費					
職員数(人)	5.55	5.55	5.55	5.55	
概算人件費(C)	45,832	45,832	45,832	45,832	
概算事業費(B(A)+C)	51,763	50,319	50,804	51,202	

成果目標の達成状況					
項目	H25末 (実績)	H26			H27 目標
		目標	成果	達成状況	
県種雄牛	4頭	4頭	4頭	達成	-
牛凍結精液の供給	551本	2,800本	1,743本	未達成	2,800本
豚液状精液の供給	1,700本	1,800本	1,688本	未達成	1,800本

目標に対する成果の状況	<p>・乳用牛への交配を推進することによって昨年度よりも大幅に本数を増加させることができたが、全国的に流通している凍結精液へ需要が集中し目標達成には至らなかった。</p> <p>・豚液状精液は、純粋豚や高品質三元豚の生産を中心に供給を行っているが、繁殖母豚の頭数が伸びなかったこと、豚流行性下痢の発生により、養豚農家が外部からの精液購入を控える傾向にあったため目標達成には至らなかった。</p>
-------------	---

### 2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<p><input type="checkbox"/> 事業を実施しない    <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施    <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施</p> <p>・牛凍結精液の供給については、乳用牛農家等での利用をさらに推進する。</p> <p>・豚液状精液の供給については、払出し本数に応じた繋養頭数と、凍結精液に代わる遺伝資源の供給体制等の構築について検討を進める。</p>
--------------------	--